

## サン・ピエトロ・アル・モンテ教会（修道院） — チヴァーテ、Civate

ミラノから北へ 30 キロほど行ったところにある街です。コモ湖の“人”の字の右側の足の先に位置するレッコのすぐそば（国鉄駅で 2 つ手前）にあるアンノーネ湖の畔に位置しています。ここにあるサン・ピエトロ・アル・モンテ教会はイタリアでも有数のロマネスク芸術とされています。ロマネスク様式の壁画や漆喰細工が見事で、知る人ぞ知る教会です。何故、このような教会なのに知名度が低いのかは、そこに行ってみると良くわかります。とにかく、大変なところにあります。名前の通り山の上（アル・モンテ）、標高 663 メートルに建てられているので、そこに到達するまで細い山道を徒歩で 1 時間強登っていかなくてはなりません。歩く以外にこの教会に行く方法はないのです。前から、一度訪ねて行きたいと思いつつ、なかなか、足がそちらの方向に向きませんでしたがついに行って来ました。

サン・ピエトロ・アル・モンテ教会はベネディクト会の修道院です。伝説によると最後のロンバルディ王が 772 年に、息子である王子の悪い目を奇跡的に癒した水（修道院のそばを流れている）に感謝して、ここに修道院を建造したとのこと。実際に 5~8 世紀の礼拝堂や塔の跡が見つかります。修道院として記録に出てくるのは、9 世紀にスイスのサンクト・ガレン（世界遺産）から修道長と 35 人の修道士が移ったとあります。従って、現存する修道院はこの時期に建立されたものと思われる。1097 年にはミラノの司教が亡くなる前の数年をここで過ごし、ここに葬られています。そのときに、修道院は拡張されて、バシリカの向きが反転されています。その後、修道院は閉鎖され、16 世紀の中ごろに再び修道士が入り現在に至っています。

久しぶりに田舎の修道院を訪ねました。但し、今までの田舎と違って、山の上にぽつんとある修道院です。実は、オッスッチョに行ったときにも、サクロ・モンテの **Santuario** の先に、サン・ベネディクト修道院があったのですが、**Santuario** から更に 400 メートルも高いところに歩いて登らなければいけないのでギブアップしてしまっています（サン・ベネディクト修道院は、あまりにも辺鄙なので 12 世紀から使われてなく修復された教会以外は廃墟になっているとのこと）。サクロ・モンテのようにロープウェイでもあればよいのですが、まだ現役の修道院なので、世俗とは隔離しておかないといけないのでしょう。

レッコでは雨が降っていたのですが、チヴァーテに着くと雨もやみ、晴れ間も見えてきました。インターネットのガイドでは、ポッツオ村（標高 300 メートル）のほうから登って来ると景色が良いと書いてありましたので、そこから登り始めました。確かに、そこからのチヴァーテの街並とアンノーネ湖はすばらしい景観でした。



何しろ、長丁場なので、のんびりと歩いて修道院を目差しましたが、それでも大変な上り坂です。登りの時は、1人だけ上から降りてくる女性に会っただけです。所々に水飲み場があるだけで、周囲はシーンとしています。ポッツォ村で見た大きな獣の足跡を思い出し、ここで熊が出たらどうしよう等と考えながら足を運びました。途中何度か休憩を取ったのですが、熊が心配で直ぐに歩き出してしまいました。でも、しばらく歩くとまた足が上がらなくなります。

帰りには、10人以上の登ってくる人に会いましたので、人気がないわけではないようです。でも、登ってくる人は中年以上の人がばかりで、中には明らかに私よりも年上もいました。私と違うのは、皆さんが登山靴を履いていることです。普通の靴で登ったのは、多分、私だけでしょう。登山道は、石が敷き詰められていますが、丸い石が多くて、特に雨上がりという事もあってすべるのです。普通の靴ではかなり歩きづらかったのは確かです。登山靴でも、この登り道に行くには、それ相応の覚悟が必要です。あの太ったおばさんは登りきれたのかどうか心配になってきました。

必死になって登っている間に、天気は完全に回復してくれました。その代わり、暑くなって、全身汗びっしょりとなりました。もう、疲れをとおりこして苦しい状態でした。

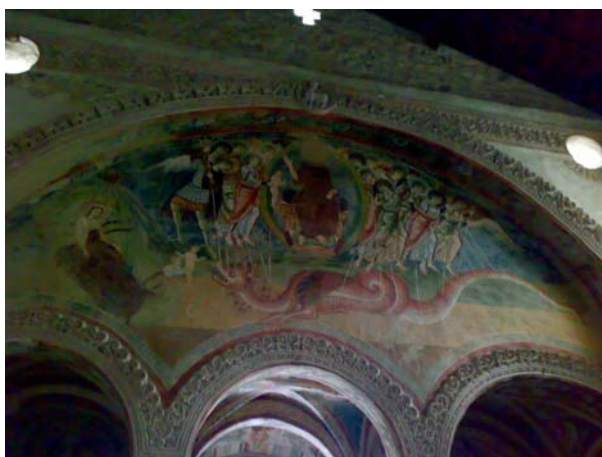


それでもやっと修道院にたどり着きました。標高は 663 メートルです。道はまだ頂上まで続いているますが、修道院を囲む石垣を見たときは全身の力が抜けるほど、ほっとしてしまい、これ以上は無理です。ついに着いたのだと声を出してしまいました。石垣で囲まれたサン・ピエトロ修道院のゲートをくぐると、まず、礼拝堂が目に入ります。直ぐに、教会が見えてきます。その後ろには高い山がそびえています。正に、サウンド・オブ・ミュージックの世界です。ここまでの登り道の苦しさがこの感動を倍増させてくれますので、最高の満足感でした。登ってきて良かった。





ここは、10世紀前後の初期ロマネスク建築ですので、ヴァラッロのマドンナ・デッラ・グラッツェ教会と同様にアーチ構造の石造りの天井ではなく木造の瓦屋根です。また、ファサード也没有。何故か、木造の天井を見ると温かみを感じます。教会の中には、ロマネスク美術としてはかなり有名な色鮮やかなフレスコ画、“悪魔（サタン）であるドラゴンと戦う天使（黙示録の一遍）”と”12使途と天上のエルサレム“があります。2007年からは保護のために中に入ることが出来ないとの情報がありましたが、教会のドアは開いていて自由に入れる上、管理人のおじさん達に挨拶すれば、写真も撮ることが出来ました。“悪魔（サタン）であるドラゴンと戦う天使”は入口の裏の壁に描かれています。”12使途と天上のエルサレム“は、入口を入った天井に描かれています。写真でわかるように本当に色鮮やかでした。見る事が出来ないと思っていたフレスコ画まで見る事が出来て、ここでまた、登ってきて良かった。





この人里はなれた修道院に行くには、チヴァーテに着いたらひたすら歩くしかありません。まず、ポッツオ村を目差し、それから標識（道が分かれるところに小さな矢印がいくつかあり、その中の S. Pietro と書いてある方向に進みます）に従って山道を歩いて行きます。登山靴が一番良いのですが少なくとも履きやすい運動靴は必需品です。日頃のなまった体を恨めしく思います。修道院のところにはカフェ等は、何もありませんので、水とお菓子程度は持っていったほうが良いでしょう。

ミラノからチヴァーテまでは、ポルタ・ガリバルディから列車で行く事が出来ます。ポルタ・ガリバルディからレッコ行きが 1 時間間隔であり、レッコの 2 つ前の駅のチヴァーテで降ります。所要時間は 1 時間で 4.2 ユーロです。但し、チヴァーテの駅は高速道路の反対側にありますので、チヴァーテの街からのアクセスが難しい(日本のように駅が便利などころにあるとは限らない)ところにあり、しかも、修道院へ行くにもかなり遠くなります。

そこで、ミラノ中央駅からレッコに直接行く列車（モンツァに停まるだけで所要時間 40 分、3.6 ユーロ）に乗って、レッコの駅前からバス（Erba/Como 行き Linea C40, ASF Autolinee、約 30 分間隔だが日曜日は 1~2 時間に 1 本弱、所要時間 20 分、駅前のキオスクで片道 1.35 ユーロのチケットを必ず往復分買う）でチヴァーテに入ることも出来ます。私はこっちで行きました。

レッコからの Linea C40 のバスは、イセッラ通り停留所を通るバスとチヴァーテのムニチピオまで行く（レッコとチヴァーテの往復バス、1 時間に 1 本で日曜日は無い）バスの 2 通りありますが、どちらでも大丈夫です。これらの 2 つの停留所のほうが、チヴァーテ駅から行くよりポッツオ村にず

っと近いので便利だと思います。降りるときはイセッラ停留所よりもその次の **Pensilina Bivio Scuole** 停留所の方が修道院に多少近いので、運転手さんに頼んでおくとこっちに連れてこられます。但し、この停留所はレッコ方面に行くバスは停まらないので、レッコに帰るときはイセッラ停留所まで行かなくてはなりません。又は、時間によってはムニチピオの停留所に行く必要がありますので、時刻表を見てどちらに行くか確認してください。もちろん、歩いてチヴァーテの駅に出てもかまいません。このように、行きも帰りも 2 通りの経路がありますから、フレキシブルな計画を立てることが出来ます。歩く時間（往復で 2 時間強くらい見ておく必要あり）を考えて、計画してください。

下記は、グーグルマップに停留所の位置を書き加えたものです。これを持っていったのですが、結構、役に立ちました。道が曲がりくねっていますが、バスの停留所から直ぐ登りだからです。でも、実際に大変だったのは、ポッツオ村を過ぎてからですので、この地図に書いていない道です。ポッツオ村は、細い道の両側に 10 件くらいの民家が立っているだけの小さな村です。あまり綺麗ではないカフェが 1 件ありますが、他には店もなにもありません。ポッツオとは井戸のことですので、飲み水くらいはあるかもしれません。



おまけに、ちょっと立ち寄ったレッコの写真を添付します。レッコもいい街でした。

